

## ◎景気ウォッチャー調査[2022年1月]

### 2022年1月の中国地域調査結果の概況

#### ■景気の現状に対する評価

現在の景気を3か月前と比較するとその評価は次のとおりであった。

景気の現状判断D I (合計)は、前月を22.2ポイント下回る34.5となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「良くなっている」、「やや良くなっている」の回答の割合が減少し、「月前半は好調に推移していたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、来客数が一気に減少している。」(スーパー)、「まん延防止等重点措置が適用され、飲食店も早々と閉店していることから、景気は悪くなっている。」

(タクシー運転手)等の理由から、「やや悪くなっている」、「悪くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を27.1ポイント下回る30.0となった。

企業動向関連は、「良くなっている」、「やや良くなっている」の回答の割合が減少し、「資材の高騰や納期遅延など悪い話題ばかりである。新型コロナウイルスの感染拡大で、稼働中の現場が最悪停止になるリスクもある。」

(建設業)、「全国的な新型コロナウイルスの急速な感染拡大により、特に1月中旬以降、ヒト、モノの動きが停滞し、取引先の売上低迷が目立ち始めている。」(金融業)等の理由から、「悪くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を5.3ポイント下回る47.0となった。

雇用関連は、「良くなっている」、「やや良くなっている」の回答の割合が減少し、「人材紹介に関する問合せ数が前月から25%減少している。新型コロナウイルス禍で、転職活動に少し消極的になり、情報収集はするが、応募までは至らない様子である。」(民間職業紹介機関)、「新型コロナウイルスオミクロン株の影響により、企業の採用意欲の低下や求人数の減少が著しい。」(人材派遣会社)等の理由から、「やや悪くなっている」、「悪くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を20.3ポイント下回る42.2となった。

	1月	12月	前月差
合計	34.5	56.7	-22.2
家計動向関連	30.0	57.1	-27.1
企業動向関連	47.0	52.3	-5.3
雇用関連 (参考値)	42.2	62.5	-20.3

#### ■景気の先行きに対する評価

現在より3か月先の景気の先行きに対する評価は次のとおりであった。

景気の先行き判断D I (合計)は、前月を4.1ポイント下回る45.0となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「やや良くなる」の回答の割合が減少し、「新型コロナウイルスの感染拡大に対する不安により、当面、客の消費マインドは回復しない。」(百貨店)、「新車と部品の供給がかなり遅れているため、今後、景気は悪くなる。」(乗用車販売店)等の理由から、「やや悪くなる」、「悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を3.9ポイント下回る44.4となった。

企業動向関連は、「やや悪くなる」の回答の割合が減少し、「新年度になり、消費行動が活発になるため、景気はやや良くなる。」(繊維工業)、「取引先の生産が増加するため、景気はやや良くなる。」(輸送用機械器具製造業)等の理由から、「やや良くなる」の回答の割合が増加したため、前月を0.9ポイント上回る46.2となった。

雇用関連は、「やや良くなる」の回答の割合が減少し、「新型コロナウイルス禍で、社会環境に明るい見通しがなく、求職者の心理が改善しないため、景気はやや悪くなる。」(人材派遣会社)、「新型コロナウイルスオミクロン株や半導体不足が経済にかなりの影響を与えるため、景気はやや悪くなる。」(その他雇用の動向を把握できる者)等の理由から、「やや悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を15.6ポイント下回る46.9となった。

	1月	12月	前月差
合計	45.0	49.1	-4.1
家計動向関連	44.4	48.3	-3.9
企業動向関連	46.2	45.3	0.9
雇用関連 (参考値)	46.9	62.5	-15.6